

古墳時代の絵の文法

Syntax of Kofun Period Paintings and Drawings

佐原 真

はじめに

- ① 広い意味での絵
- ② イメージ画の共通性
- ③ 多視点画の共通性
- ④ イメージ画としての古墳画
- ⑤ 古墳画における多視点画
- ⑥ 高松塚古墳壁画の絵
- ⑦ 古墳画・高松塚壁画の占める位置

終りに

【論文要旨】

絵には、他人の絵を真似て描く模写画、実際に対象を観察して描く写生画、心の中に浮ぶ像、すなわち心象を描くイメージ画がある。原始・古代の絵の多く、ヨーロッパ・中国の絵の影響がおよばなかった地域の人びとの絵、すなわち民族画、そして児童画（日本ではおよそ2、3歳～10歳の子どもの絵）は、イメージ画に属している。したがって、大昔の絵、民族画、児童画は、時代の経過、地理的空間を越え、民族・年齢差を越えて共通基盤をもち、たがいに比べる学術的意義をもつ。

そこで、まず、イメージ画の共通性を列挙する。1 絵記号、2 基底線上の絵、3 基底面上の絵、4 重なりのない絵、5 例外的な重なりのある絵、6 大切な対象は大きく描く、7 真直ぐ立つ像、斜めになった像、上下逆の像を同一画面に描く展開画、8 レントゲン（X線）画、9 静止している状態、歩いている状態を同一画面に描きこむなどの多時点画、10 船体は横から見て描きながら、船を上から見おろしたように右舷・左舷の両側に多数の櫂をのぼすなど、ひとつの図形、ひとつの絵を複数の視点から見て描いたような多視点画である。

次に、今あげた諸特徴を古墳時代の絵で具体的にとりあげる。そして、この見方によって引き出すことの出来る新しい解釈をかかげる。

最後に、古墳時代の絵と弥生時代の絵はイメージ画という共通性にもとづくけれども系統的関係はないこと、古墳時代の絵は高句麗古墳の絵と無関係であること、中国の唐の絵画の影響によって奈良県高松塚古墳の絵、法隆寺金堂壁画の絵が始まり、「有力者の絵」が確立したことをあげる。